

政策	1 グローバルロジスティクスの港	施策推進 責任者	企画調整室長
基本施策	02 ロジスティクスハブ機能の強化		
個別施策	10 臨海部道路ネットワークを充実する		

1. PLAN(目的・内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	港運、荷主、トラック事業者
	サービスの対象物(何を)	名古屋港周辺の幹線道路、臨港道路
	意図(どういう状態にしたいのか)	渋滞が緩和され、円滑に貨物輸送ができる
内容	名古屋港周辺の幹線道路では、西部地区における交通量の増加により、慢性的な交通混雑が発生しています。また、臨港道路においては、コンテナターミナルを利用する大型トレーラーの渋滞が顕著となっています。このため、周辺の幹線道路ネットワークの構築や港内における交通混雑の緩和により円滑に貨物輸送ができるようにしていきます。	
目標	西部地区における主要交差点での渋滞緩和を図ります。	目標達成に影響する外的要因等 世界の景気動向による貨物量の増減

成果指標	実績等	年度								目標 平成25	指標の説明(式)
		平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25				
桜木大橋北交差点の渋滞長(北向き左折)	実績	m	-	420	250	1,350	330	370	250	・達成率は平成19年値(上から590、420、550)を基準とした目標値に対する解消率 ・平成20年は調査を未実施	
	達成率	%	-	50.0	100.0	-	76.4	64.7			
桜木大橋北交差点の渋滞長(東向き直進)	実績	m	-	280	20	350	240	340	210		
	達成率	%	-	66.7	190.5	33.3	85.7	38.1			
桶1交差点の渋滞長(北向き右折)	実績	m	-	150	200	750	340	280	120		
	達成率	%	-	93.5	81.4	-	48.8	62.8			

2. DO(個別施策を構成する各事務事業の取組内容と今後の方向性)

重点化	担当課名	事務事業名(コード)	事務事業の概要	主な活動・成果指標	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	事業費の合計	目標値(年度)	平成25年度実施事業に基づく評価結果				
					実績	実績	実績	実績	実績	実績見込み			平成25年度までの状況※1	事務事業※2	成果※3	コスト※4	備考(判断の理由等)
					上段:指標達成状況												
	(企画調整室) 計画担当	道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)(個10事01)	交通のボトルネックの解消や、コンテナ貨物の増加による港湾関連車両の分散化など、既存施設の有効活用を含めた効率的な道路ネットワーク体系の調査・検討を行います。	策定進捗率(累計)(%)	18.5	21.4	24.3	27.1	35.7	42.9	142,381	100 累計(H25)	遅れ	延伸・統合	→	→	・社会情勢の変化等を踏まえ、これまで取りまとめた基本方針や施策展開等の検証を行っていくため。(H25→H27に延伸) ・港湾計画の策定に係る事業として統合。
	(企画調整室) 計画担当	広域幹線道路網整備の支援(個10事02)	関係機関と連携し、国への要望活動に参加します。	要望道路の事業化(件)	1	0	0				3,362	- (継続)	完了				業務は継続しているが、成果が間接的であり、評価対象にふさわしくないため。
	(企画調整室) 事業担当	飛島ふ頭道路(改良)整備事業(個10事03)	円滑な車両走行を確保するとともに飛島ふ頭へのアクセスの定時性を確保するため、臨港道路を整備します。	事業進捗率(%)	100						0	100 累計(H20)	完了				目標を達成したため。
○	(企画調整室) 事業担当	鍋田ふ頭道路(進入)整備事業(個10事04)	鍋田ふ頭における物流の効率化を図るため、臨港道路を整備します。 整備内容:道路整備(延長2.3km、幅員3.5m×4車線)	事業進捗率(累計)(%)	33.6	38.9	45.0	51.0	58.3	64.6	2,854,813	100 累計(H27)	順調	継続	→	→	引き続き円滑な貨物輸送を行っていくため。
				施策コスト(事業費合計)	440,359	416,917	488,058	474,800	612,215	568,207	3,000,556						

注)事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。  
注)目標値欄の「(継続)」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は、原則として平成25年度を中間目標として設定しています。

※1	※2	※3	※4																																						
<table border="1"> <tr><th>記入</th><th>内容</th></tr> <tr><td>完了</td><td>前年度以前に完了した事業</td></tr> <tr><td>順調</td><td>80%の進捗度合</td></tr> <tr><td>やや遅れ</td><td>60%以上の進捗度合</td></tr> <tr><td>遅れ</td><td>60%未満の進捗度合</td></tr> </table>	記入	内容	完了	前年度以前に完了した事業	順調	80%の進捗度合	やや遅れ	60%以上の進捗度合	遅れ	60%未満の進捗度合	<table border="1"> <tr><th>記入</th><th>内容</th></tr> <tr><td>継続</td><td>施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当</td></tr> <tr><td>完了</td><td>目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当</td></tr> <tr><td>延伸</td><td>状況を勘案し、目標年度を先送りするもの</td></tr> <tr><td>統合</td><td>他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当</td></tr> <tr><td>休廃止</td><td>終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当</td></tr> </table>	記入	内容	継続	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当	完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当	延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするもの	統合	他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当	休廃止	終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当	<table border="1"> <tr><th>記入</th><th>内容</th></tr> <tr><td>拡大</td><td>何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの</td></tr> <tr><td>維持</td><td>従来どおり進めていくもの</td></tr> <tr><td>縮小</td><td>一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの</td></tr> </table>	記入	内容	拡大	何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの	維持	従来どおり進めていくもの	縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの	<table border="1"> <tr><th>記入</th><th>内容</th></tr> <tr><td>拡大</td><td>成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの</td></tr> <tr><td>維持</td><td>従来どおり進めていくもの</td></tr> <tr><td>縮小</td><td>一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの</td></tr> </table>	記入	内容	拡大	成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの	維持	従来どおり進めていくもの	縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの
記入	内容																																								
完了	前年度以前に完了した事業																																								
順調	80%の進捗度合																																								
やや遅れ	60%以上の進捗度合																																								
遅れ	60%未満の進捗度合																																								
記入	内容																																								
継続	施策の成果向上・維持のため、事務事業を継続することが妥当																																								
完了	目的を達成したため、事務事業を完了することが妥当																																								
延伸	状況を勘案し、目標年度を先送りするもの																																								
統合	他の事業とまとめ、一体的に評価することが妥当																																								
休廃止	終期を設定し事務事業を廃止または休止することが妥当																																								
記入	内容																																								
拡大	何らかの改善策の実施により成果の拡大を必要とするもの																																								
維持	従来どおり進めていくもの																																								
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由で成果を縮小するもの																																								
記入	内容																																								
拡大	成果の拡大(または維持)のためにコストの拡大を必要とするもの																																								
維持	従来どおり進めていくもの																																								
縮小	一定の成果を達成、必要性が薄れているなどの理由でコスト縮減を図るもの																																								

4. ACTION(個別施策全体の今後の取組の方向性)

次期政策体系への方向性	「次期政策体系への方向性」を判断した理由(本組合財政収支への影響の考察を含む)	
成果※3	コスト※4	・現政策体系のもと、鍋田ふ頭進入道路の整備等を進めてきました。次期政策体系においては、道路整備費相当のコスト縮小が見込まれますが、引き続き、臨海部における円滑な道路体系の確立に向けての取り組みは維持する必要があるため。
→	↘	
次期政策体系への展開(個別施策の構成、新規事業の創出、事務事業の見直し等)		
・飛島ふ頭と鍋田ふ頭間の渋滞の緩和を図るため、新たな道路機能の拡充などに関しては、関係者との調整を行い、道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)の中で、検討を行っていきます。 ・鍋田ふ頭道路(進入)は、平成27年度の完成を目標とし、引き続きⅡ期線の整備に着手に取り組んでいきます。		

3. CHECK(個別施策全体における取組状況と課題)

現政策体系における主な取組など	現政策体系における課題認識など
・道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)については、パブリックコメント等を実施し、基本計画の方針、施策展開について検討しましたが、国の新たな成長戦略や総合物流施策大綱など、将来動向を見極めながら計画内容を検証していくこととしたため、平成25年度の改訂は行いませんでした。 ・円滑な貨物輸送の実現を目指し、鍋田ふ頭道路(進入)は、Ⅰ期線事業(暫定2車線)が平成24年度に完成しました。引き続き、残りの2車線の整備を進めています。	・道路ネットワーク計画の策定(港湾計画の策定)については、平成27年度の改訂を目標に取り組んでいく必要があります。 ・飛島ふ頭～鍋田ふ頭間は、交通量が多く、各交差点の改良は行いましたが、まだ渋滞が顕著となっているため、渋滞緩和の新たな対策が必要と考えられます。
現政策体系における事務事業の適正性	
・事務事業構成は妥当です。	